

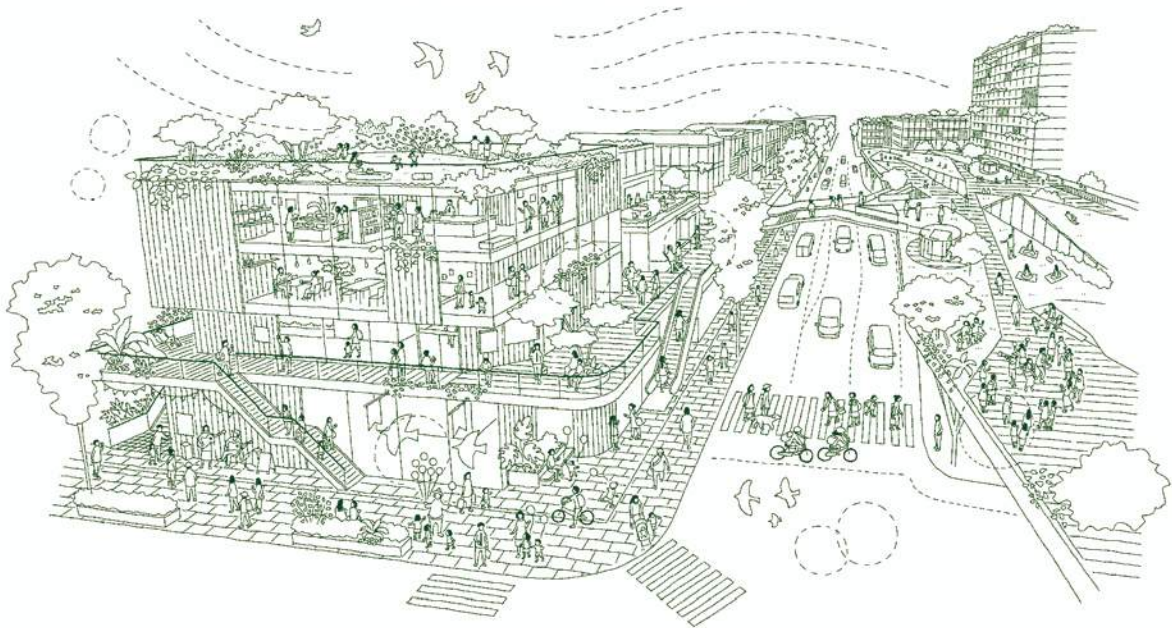
2019年2月1日
東急建設株式会社

木心地のよい都市を創る新ブランド『モクタス』を立ち上げ — 中大規模木造建築市場へ本格参入 —

東急建設株式会社（本社：東京都渋谷区、社長：今村俊夫）は、今後の拡大が見込まれる中大規模木造建築市場へ本格参入し、事業推進を加速するため、新ブランド『モクタス』を立ち上げましたのでお知らせいたします。



木心地のよい都市を創る。



『モクタス』は、中大規模木造建築を通じたまちづくりブランドです。都市に木（もく）を足すことで心地よいまちづくりに貢献したいという東急建設の想いを表しています。弊社ではブランドメッセージである”Town Value-up Management”の通り、建物ひとつひとつではなく、“まち”全体を考え、生活者の価値創造に取り組んでおります。世界的潮流である中大規模木造建築をもって、東急グループ企業との積極的な連携のもと、地球環境時代における「生活者の心を満たす街づくり」に取り組んでまいります。

なお、『モクタス』が取り組む技術開発に関しては、同日リリースした「規格流通木材を利用し低コスト・短工期で木造中空間を創出する連続斜め梁構法を確立」をご覧ください。

● 中大規模木造建築事業 新ブランド『モクタス』について

【目指す姿】(別紙-1)

東急グループの一員として、東急沿線をはじめとする都市に木(もく)を足すことで、心地よいまちづくりに貢献してまいります。また、東急グループ企業との協業を積極的に働きかけ、沿線価値向上に努めます。

【建築実績】(別紙-2)

これまで木造建築分野において、多摩田園都市のまちづくりをはじめとする戸建住宅を20,000棟以上、また「大規模なホール」や「駅」、「教育・保育施設」といった建築物を建築しており、そうした実績を背景に中大規模木造建築に関するノウハウを有しています。

【社会的意義】(別紙-3)

我が国の課題である林業再生および森林サイクルの健全化、それらを通じた地球環境保全および持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

● 『モクタス』 WEBサイト

<https://www.tokyu-cnst.co.jp/moctas/>

● 『モクタス』 プロモーションビデオ

<https://www.youtube.com/watch?v=BvMMGTLSfnQ&feature=youtu.be>

【本件に関する問合せ先】

経営戦略本部 経営企画部 コーポレート・コミュニケーショングループ 西田

TEL 03-5466-5008 FAX 03-5466-5069 E-mail:webmaster@tokyu-cnst.co.jp

(別紙-1) 中大規模木造建築事業 新ブランド『モクタス』が目指す姿

【ブランド名の由来】

『モクタス』は、中大規模木造建築を通じたまちづくりブランドです。ブランド名である『モクタス』は、都市に木(もく)を足すことで、心地よいまちづくりに貢献したいという東急建設の想いを表しています。東急グループのゼネコンとして、中大規模木造建築の第一人者として歩み続ける覚悟と、美しい生活環境を創る先駆者になる決意を込めています。



【ロゴデザインに込めた想い】

- 柔らかい都市：無機質な都市を木心地のよい都市へと再生するイメージ
- 創造性に富んだ建築：「MOKU」ではなく、「MOC」。「C」はクリエイティビティ
- 象徴的な場所：「+(プラス)」を象徴化した「木」は、この場所から「木」を足していく意

【ブランドミッション】

都市生活者が快適に思う木の心地を探求し続ける。

都市、生活者、そして木。

東急建設の中大規模木造建築「モクタス」は
三者のよりよい関係を探求します。

【ブランドポリシー】

探求とは口で語るはたやすくも行動ありて年輪とならむ。

真価は行動によってのみ創造される。

東急建設の中大規模木造建築「モクタス」は
倦まず弛まず歩みを続けます。

(別紙-2) 東急建設の木造建築分野の建築実績

【これまでの建築実績】



慶應義塾大学 志正弓道場

- 建築地：神奈川県横浜市港北区
- 構造・規模：木造・地上1階建て
- 延床面積：496.7 m²



神鳥前川神社 参集殿

- 建築地：神奈川県横浜市青葉区
- 構造・規模：木造・地上1階建て
- 延床面積：232.7 m²



大船渡市立 越喜来小学校

- 建築地：岩手県大船渡市
- 構造・規模：混構造(木造・RC造)・地上2階建て
- 延床面積：6,089.05 m²



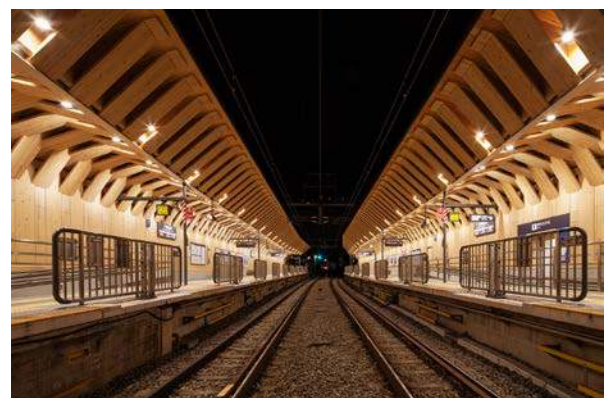
ポピンズナーサリースクール久我山

- 建築地：東京都杉並区
- 構造・規模：木造・地上2階建て
- 延床面積：655.56 m²



佐多町 森林総合活性化センター「さたでいホール」

- 建築地：神奈川県横浜市港北区
- 構造・規模：木造・地上1階建て
- 延床面積：496.7 m²



東急池上線「戸越銀座」駅

- 建築地：神奈川県横浜市青葉区
- 構造・規模：木造・地上1階建て
- 延床面積：232.7 m²

【持続可能な木材利用による森林整備への貢献】

日本は国土の約3分の2に相当する2千5百万haが森林であり、そのうち人工林が約4割を占めています。それらの人工林は、間伐など人の手が加えられることを前提に維持され、管理が行き届かなくなると木の成長は滞り、やがて森林のもつ土砂災害の防止機能や水源涵養機能といった公益的機能が損なわれ、生物多様性にも影響をもたらします。現在、森林の蓄積【図1】は、戦後復興により植林された人工林を中心に毎年増加し、総蓄積は2012年3月現在で約49億m³となります。特に人工林はこの半世紀で約5.4倍にも達し、2020年時点には、本格的な利用可能期を迎える10歳級以上の人工林が約7割になると見込まれています。適正管理下の森から樹木を伐採して、木材として建築物に使用することは、森林サイクルを健全化することのみならず、再生可能資源の使用により化石資源使用量を削減することにつながり、持続可能社会の構築にも大きく貢献します。

【二酸化炭素排出削減による地球温暖化防止への貢献】

森林は空気中の二酸化炭素を吸収し炭素を貯蔵していますが、それらを伐採・加工した木材そのものも森林と同様の炭素貯蔵機能を持っています。建築物等に木材を利用することで吸収した炭素を固定し続けることが可能となり、地球温暖化防止に貢献します。

【さまざまな省CO2効果】

主要な建設資材の二酸化炭素排出原単位を比較すると、木材は、鉄やコンクリートなどの原材料よりも排出量が小さいことが知られています。他構造から木造に置き換えることによって、二酸化炭素排出量の削減【図2】が期待できます。また、木材はカーボンニュートラル(※)な材料であり、利用が終わった木質系廃棄物などをエネルギーとして再利用した場合、化石燃料によってエネルギーを得るよりも、総量として二酸化炭素の排出を抑えることが可能となります。



※木材を燃やして出るCO₂は、樹木が成長過程に吸収したCO₂と同量であり、環境破壊につながらないという考え方

以上